Become a valuable team

『公益社団の財産は・・・会員』

8/7 夏期学術研修会と 9/11 保険研修会は久しぶりに対面事業として開催しました。
「コロナの感染防止対策を万全にして、講師の先生や会員をお迎えしましょう」リモートで行われた理事会で、会長のこのご発言によりアフターコロナを意識する事業をスタートさせる事ができました。





学術研修会には岡山県医師会の松山正春会長、日整の三橋裕之副会長にご講演をお願いし、また会員発表では『匠の技伝承プロジェクト』に参加してくれている会員から伝達講習をいただきました。
普段、骨折や脱臼などに触れる機会が激減している先生も多いと思いますが、これらに真剣に取り組んでおられる先生がいらっしゃる事も事実である事を再認識させられる内容であったと思います。



保険研修会では医師会から小林孝一郎先生(元岡山県議)にお越しいただき、柔整の活躍できる場など貴重なご意見を頂戴しました。その後 10 月から変更のある健康保険の説明を保険部長から、さらに新企画として保険部員によるプレゼンを行いました。普段から会員の疑問や質問に真摯にお応えしている部員から、疑問点や改善した方がいい点などを自分の言葉で発表していただきました。

やっと始まった 2 つの対面事業でお迎えした講師の先生方からは、今の柔整の問題点などを指摘、さらに貴重なヒントも頂戴したように思います。
そして何より私が個人的に感じたのは学術部や保険部さらに、匠の技伝承プロジェクトで

の勉強や、エコー講習会を企画してくれている会員の姿でした。
緊急事態宣言発令中でも会員が請求する申請書のチェックは、事務局に保険部員が集まって深夜まで頑張ってくれていました。
総務部や学術部はイベントがあるたびに、対面とリモートの準備を並行して行ってくれていました。
コロナ禍で経済的なダメージを受けた事、感染しないように努力する事は全会員同じですが、各部員はそんな中で会員のために走りまわっ





てくれていたのは紛れもない事実です。理事はそれぞれ顔や名前が出ていますが、部員に関してはそれさえもありません。しかし先の見えないコロナ禍で活動や準備を怠らずにしてくれた部員の先生には感謝以外の言葉が見当たりません。
これから様々な企画が対面で始まると思いますが、
「なぜこんな環境が毎回準備できているのか？」
「疑問や不安に直ちに対応してくれているのは裏では誰が頑張ってくれているのか？」
そんな事に注意を払ってくれる会員が増えることが、各部でがんばってくれている人に対する最低限のマナーであるようにも思います。
コロナ禍で私たちと一緒に戦ってくれた部員の先生方、本当にありがとうございました。
そしてここからが大切です。よろしくお願いします。



